（様式）

令和3年度　学校評価　学校関係者評価書

学校園名	三木市立自由が丘幼稚園

1 学校教育目標

遊びながら学び育ち合う子ども達の育成

（1)明るい子　（2)やさしく心豊かな子　（3)気づき、考える子　（4)根気強い子

2　本年度の重点目標

『仲間とのつながりに支えられ、様々な遊びや環境に試行錯誤しながら主体的にかかわる中で、就学以降への学びとの接点を探る。』
～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の項目への着眼から～

3　自己評価結果（達成状況）【　A：達成している　B：概ね達成している　C：あまり達成していない　D：達成していない　】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程・指導	○一人一人の内面を読み取り、支援の方向性を探る。 ○一人一人の学びと集団としての学びの相互関係を共有する。 ○基本的生活習慣の育成を図る。 ○給食や栽培活動を通した食育の推進を図る。	○「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の項目」に一人一人の園児についての様子と課題になっているところを職員間で話し合い共有した。 ○コロナ禍で登園が不安と言う子どもには電話連絡、家庭訪問等を感染状況を見ながら学びを止めないように工夫した。 ○野菜の栽培を通して、食育につなげていく。（いちご、ヤーコン、さつまいも、夏野菜等）	A	○「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の項目」に着目した研修を継続していく。 ○一人一人の内面を読み取り、学びにつなげられるように、職員間での協議を行い、共通理解しながら適切な支援を行っていく。 ○新型コロナウィルス感染症の感染状況を踏まえながら、外部から講師を招いての研修を行い、教師の指導力の向上を目指す。
道徳・人権教育	○身近な自然や動植物にふれ、命を大切にする心の育成を図る。 ○様々な体験活動を通し、思いやりの心と規範意識の芽生えを培う。	○自然に恵まれた園庭を活用し、いろいろな草花、そこに集まる虫、うさぎ等の生き物に目を向けさせ、命を感じさせた。また、見たこと、感じたことを身体表現し、子ども同士の心の交流を図った。　○こどもは様々な活動を通して、人とかかわる力がつくと考える。そのような活動を意図的にいれていくよう保育計画をおこなった。	A	○あらゆる保育のなかで、人権を意識し保育を行っていけるようにするには、それを行う教師の人権感覚を磨くことが大切である。今後も研修していく。 ○身近な生き物とのふれあいを通して、命の大切さを感じられるようにする。 ○活動計画の周期的な見直しを行っていく。
特別支援教育	○一人一人の個性を大切にし、心寄り添う支援を行うとともに、相互に認め合い、共に学び、共に育ち合える仲間関係の育成を図る。 ○専門機関と繋がりつつ、的確な支援の方向性を見極める。	○一人一人にとっての目標を決め、適切な支援を考え、定期的に見直しをりながら、仲間の中で育っていく環境を整えた。 ○専門機関と繋がりながら、保護者との連携が図れるように話し合いを重ねた。	B	○個人支援案計画の作成、などに取り組み、専門機関との繋がりを密にして、的確な支援を探る。 ○保護者との連携を図る。
家庭・地域 小学校との連携	○家庭教育の素地の上に子どもの育ちがあることを伝える。 ○地域との身近な繋がりを見出し、継承できるようにする。 ○授業や児童の実態をより具体的に掴み学びの共有化を目指す。	○降園時に保護者に、本日の保育のねらい、内容をスピーチし、子どもたちの育ちを共感し合った。　○コロナ禍で、なかなか交流等はできなかったが、ホームページや公民館行事への参加など感染状況に配慮しながら、地域に発信した。	B	○子どもの連絡帳にそれぞれの子どもの様子を写真とともに伝えたり、お帰りの時のスピーチなど、家庭と連携をする工夫をした。 ○引き続き感染防止対策をとり、密にならないよう工夫して、参観日、発表会をする。 ○新型コロナウィルス感染症状況をみながら、地域とのつながりをこれからも持てるよう行事の時期、内容を工夫していく。
健康・安全教育 防災教育	○新型コロナウイルス対策の3密を避けるよう環境を整えたり、指導したりする。 ○周りに起こる事象について敏感に察知し、その都度教師間の意識を保ち、保護者や子どもと共有する。 ○市教委と連携した危険個所等の施設管理体制の充実を図る。	○毎朝の健康カードにて子どもの健康状態を把握した。教室内の換気など感染防止を徹底した。　○子どもたちもマスクをつけての生活、手洗いの徹底した。 ○保護者には、随時感染対策の協力を求めていった。 ○月１回避難訓練（地震、火災、防犯等）を行う。	B	○全職員が一人一人の子ども、保護者の様子を共通理解していけるよう、話し合いの場を多く設けていった。 ○　新型コロナウィルス感染の影響に関する心のケアを適切に行う。 ○給食時の対応として、仕切りや座る位置、配膳方法などを職員で共通理解し、環境を整えた。 ○月一回の避難訓練で、命の大切さを伝え続けた。

4　自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

○自己評価方法は謙虚に過小評価の面も感じるが、適切である。
○保護者の方々の園への評価がとてもよく、感想を読んでも、園への高い信頼感が伺える。これは、教職員が子ども達一人一人に目を配り指導されているからだ。これからも子ども達とその保護者が生き生きと成長できる手助けをし続けてほしい。
○アンケート結果を数値化したり、園の日頃の取り組みを近くで見ていた者から見ても、園は自己を客観的にとらえ、公正に評価している。
○新型コロナウィルス感染防止に日頃から注意深く、対処されていることに感謝する。しかし、コロナが不安で登園できない園児がいる事に心が痛む。早く終息し子ども達が子供らしく園庭を元気に走りまわれる姿が見れますように願う。

5　評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
評価Aは、適切である。 ○コロナの影響が大きく、臨機応変さが求められる中、どのような状況でも、子ども達の楽しめる活動をと考え工夫し、その活動の中で、一人一人の成長や変化を見つけ、認めながら保護者と共にその育ちを喜びあえた。 ○園児の元気な声や笑顔は、先生方が平常時より、問題意識をもったり、研ぎ澄まされた指導力を発揮されている成果。教師間のチームワークの良さを発揮いる。 ○登園できない子や保護者へも働きかけているのが良い。 ○　講師を招いての研修は大事だが、先生の負担減となり、子どもによい影響を与えるのではないか。
評価Aは、適切である。 ○自然と生き物の命を感じ大切に思う心や子ども間の交流は、園の集団生活でないと学べない。 ○三つの幼稚園の交流は、初めて出会う友だちとふれあう緊張感、仲良くなれた時の喜びを体験から感じることが出来ている。無理なく自然と子ども同士のかかわりが持てる活動内容の工夫等が見られ素晴らしかった。 ○幼児期に育まれた「やさしい心」何かを見て「感動できる心」は、大きくなっても心の底に大切に生き続いていくと思う。
評価Bは、適切である。 ○それぞれ別々な支援を必要としていると思うので、専門機関と保護者と園との連携で最善の支援を続けてほしい。 ○それぞれの苦手な事不安に思うことが違うことを知り、友だちの不安な思い苦手に思っていることを理解し、共に支えあおうする姿勢が、子ども達の言動から伝わった。
評価Bは、適切である。 ○コロナ禍で地域の方々とのふれあいが出来ないのは残念な事であるが、HPを見る限り、いろいろな活動をしていただいているように思う。写真等で様子を伝えたりと保護者への働きかけも素晴らしい。困難な状況に屈せず、前向きに考えて工夫している。 ○降園時のスピーチでは、参観日やオープンスクールが実施されない中、園の生活が良く分かった。保護者との話も大切にされていた。保護者は、厚い信頼を寄せていた。
評価Bは、適切である。 ○感染防止の観点から気を緩めることなく、対策をとっている。 ○避難訓練が定期的にされ、防災教育も続けている。評価について、予期せぬ災害を鑑みる観点から、評価Bとする。 ○月1回避難訓練、追悼行事など命の大切さを伝えるのは大事である。　○子どもの心の不安を見極め、早期発見する。このことが、保護者の方々が安心してお子様を幼稚園に通わせられる理由である。